



新生戯曲展

墨都参拾伍区からの帰還

作：宇里香菜

1932年3月15日火曜日仏滅時刻不明殉国墨都参拾伍区

20240315

新生戯曲展 墨都参拾伍区からの帰還

1

新生戯曲展 墨都参拾伍区からの帰還

作：宇里香菜

登場人物

A群

B群

ボク

クラインフェルター・サーボ（KS）／妻

上手側（ボクの背後・客席側から観えない位置に設置）サーキュレーター可動（弱）

暗転／舞台中央／板付き

A群「1932年3月15日火曜日仏滅時刻不明（かようびぶつめつじこくふめい）殉国墨都参拾伍区（じゅんこくぼくとさんじゅうごく）」

明転

上手側（KS）下手側（ボク）スポット

以下、それぞれのパントマイムを行う

A群「ボタン・ボタン・ボタン」①

B群「ボタン・ボタン・ボタン」②

A群「洗濯・洗濯・洗濯」③

B群「選択・選択・選択」④

A群「生産・生産・生産」⑤

B群「凄惨・凄惨・凄惨」⑥

A群B群「清算」⑦

A群「ボタンをかけて、好きな服を着る」

B群「そのボタンを押して、美味しいものが来る」

A群「何度も洗濯する日常」

B群「何度も選択する日常」

A群「生産する凄惨な清算する」

B群「私の為、それともあなたの為、誰の為」

地明かり（イメージぼんやり暗いBARの店内）／舞台中央／板付き

下手：ボク（頭を垂れて眠っている）

上手：クラインフェルター・サーボ（KS）

K S > 頭の上から少し覗き込みながら

K S 「おはようございます」

K S 「おはようございます」

K S > 寝惚けている相手に少し強めに

K S 「おはようございます」

K S > 少し肩を叩きながら

K S 「起きて下さい、おはようございます」

明転

ボク > ゆっくりと目覚める

ボク 「うっうう・・・・・・・・おはよう・・・・・・・・ございます」

K S 「気持ち良く眠れましたか」

ボク > 辺りを見回しながら

ボク 「え、ええ・・・・・・・・今、何時ですか・・・・・・・・此処は・・・・・・・・何処ですか？」

K S 「まあまあ・・・・・・・・どうです、クリーピーパスタでも」

ボク 「パスタですか？・・・・・・・・いえ・・・・・・・・結構です」

K S 「そうですか残念です、ふふ」

ボク 「・・・・・・・・」

K S 「咽喉は渴いていませんか。そう言えばうちにも入ったんです。ドーソン・シティで生まれた Sourtoe Cocktail (サワートゥ・カクテル) でも呑みますか」

ボク 「いえ、大丈夫です」

K S > 飲み物を探す素振り

K S 「そうですか。ああじゃあ、甘い香りの飲み物もありますよ。えっと何処かな」

ボク 「・・・・・・・・」

K S 「あーそうそう、音楽は好きですか。」

ボク 「・・・・・・・・あーはい」

K S 「良かった。ジャズ歌手の Eleanora Fagan (エレオノーラ・フェイガン) は、勿論、知っていますよね。知っています？」

ボク 「えっ、あー・・・・・・・・ちょっと・・・・・・・・ど忘れしているみたいで」

K S 「そうですか。そうですか。まあちょっと聞いてください。思い出すかもしれませんよ
えーっと『奇妙な果実』っていう歌がありまして、それがね、こうなんかグッと来るものが・・・・・・・・まあまあ、こんな歌詞なんです」

『南部の木には奇妙な実がなる』

『葉には血が流れ、根には血が滴る』

『南部の風に揺れる黒い体』

『ポプラの木々にぶら下がっている奇妙な果実』

K S 「どうです・・・・・・まあ、まだ続くんですけど、思い出しましたか」
ボク 「・・・・・・ジャズが好きなんですか」
K S 「ジャズも好きです。歌には歌詞があります。言葉が好きなんです、言葉の裏側にある本当の意味が解るとなんだか、ゾクゾクします」
ボク 「・・・・・・此処は、何処ですか」
K S 「知りたいですか。知ってどうします。知ってどうなりますか」
ボク 「いつの間にか寝てしまったようで・・・・・・何で此処に居るのかも良く分かっていないんです」
K S 「そうですか。」
K S 「この国は、1日に約90人の赤ちゃんが産まれて来ます」
K S 「この国は、1日に約180人の・・・・・・死んで逝きます」
K S 「この国は、選ばれたユートピア『UNIVERSE 25』それともディストピアなんですかね」
ボク 「『UNIVERSE 25』・・・・・・」
K S 「知っていますか。あの」
ボク 「あの」
K S 「世界的に」
ボク 「世界的に」
K S 「有名な」
ボク 「有名な」
K S 「ネズミの樂園を創った」
ボク 「ネズミの樂園を創った・・・・・・」
K S 「・・・・・・」
ボク 「・・・・・・ウォルトディズニー」
K S >被せるように
K S 「ジョン・バンパス・カルフーンです」
ボク 「わかりません」
K S 「そうそう、亡くなる時は何故か潮の香りがするらしいですよ」
ボク 「・・・・・・」
K S 「逆に産まれる時は何故か甘い香りがするらしいです」
K S >ボクの後ろで回り込んでコップ（甘い香り）のふたを外す。徐々に甘い香りを客席に流す・
ボク >甘い香りに気が付き辺りを見回す
ボク 「・・・・・・ん？、何か・・・・・・」
K S >段々と気持ちが高揚して来る
K S 「きっと産まれる時は、沢山のエネルギーが必要になるので、甘い香りで誘き寄せるの

でしょうね」

ボク「・・・・・・・・誘き寄せるといのは？」

K S「うーむ、沢山のエネルギーが必要になるって言いませんでしたっけ」

ボク「それは聞きました」

ボク>甘い香りには気が付いているが状況を見守る

ボク「・・・・・・・・もし・・・・・・・・もしですよ。その産まれる時に何かあったら・・・・・・・・」

K S>考える思い浮かべる仕草

K S「何か・・・・・・・・ああ、何かあれば勿論、対処しますよ」

ボク「対処？ 対処ですか？」

K S>被せるように

K S「ほら、あのマゴットセラピーと同じですよ」

ボク「マゴット？ セラピー？」

K S「もうこんな事、ボーナス問題ですよ。じゃあ、おさらいしましょうか。壊死した組織を喰わせて患部（幹部）を清浄化し、正常な肉芽組織の再生。どうですか、分かりましたか」

ボク>怯えながらも質問を続ける

ボク「此処は何処なんですか。今は、いつなんですか」

K S>ゆっくりと喋り出し、秒数の箇所で機械的な喋り方へ

K S「1932年3月15日火曜日、時刻は、開始して8時間と36分36秒、37秒、38秒、39秒・・・・・・・・」

ボク>被せるように

ボク「場所は？」

K S「胎内です」

ボク「胎内」

K S「知りたいという慾求に駆られた好奇心や知識慾と、知ってしまった動揺と絶望感」

ボク「・・・・・・・・そんな」

K S>たたみかける

K S「ああ似ていますね。蝸牛がロイコクロリディウムに寄生されて、ブルードサックが激しく脈動するのと、それとも音階を規制されてブルーノートスケールの第3音第5音第7音（♭3 ♭5 ♭7）を奪われた・・・・・・・・そんな顔をしなくても」

K S>徐々にゆっくりと上から目線で

K S「知らない方が幸せな事もありますよね。どうですか希望を挽ぎ摂られた感覚は、教えて貰えますか。喋られるうちに」

照明 白>ピンク>赤へ

顔を上げて客席側を観て驚き、辺りを凝視する（客席側）

ボク「・・・・・・・・」

K S 「あっ気づきました」

ボク「こんなことが……」

K S 「同じような方々が甘い香りに包まれて、とっても倅せそうですよ。ほらほら、ゆっくりしていたら動けなくなりますよ」

ボク「そんなのまやかした」

K S 「そのうち、胎内と一体化します。共棲する為に養分として強制給餌の餌側になって貰います」

>客席から養液を吸われる音がし出す

K S 「伝わりましたか。理解されましたか」

ボク>逃げようとするが足が胎内に埋まっていて動けない

ボク「あ、足が、厭だ。こんなところで死にたくない」

K S 「大丈夫ですよ。死にませんから、どうぞ落ち着いて下さい。ああでも自我は無くなります、が、逆に記憶は共有されますよ。胎内と一体化するだけです」

>真っ赤

ボク「うわあああああ—————」

目潰し後／暗転

明転

舞台中央（部屋の中）洗濯物を畳んでいる

妻／K S 「どうしましたか？」

ボクが、書籍（殉国墨都参拾伍区）を持っている

ボク「うわっ……あっ……夢か？」

手元にある本を見つめる

妻／K S 「大丈夫ですか？」

ボクが自分の足元を見るが特に何も無い

ボク「……ああ、大丈夫だ」

妻／K S 「いきなり大声出すから吃驚してしまいました」

ボク「そうか……」

妻／K S 「……あなた、次は、いつにしますか？」

ボク「ああ？何が？」

妻／K S 「子ども……」

ボクが遮るように

ボク「ちょっと聞いて良いか？」

妻／K S 「何ですか？」

ボク「今日は何月何日だ？」

妻／K S 「3月15日です」

ボク「えっ・・・・・・・・」

妻／KS「1932年3月15日火曜日」

暗転

終

登場人物設定資料

『ボク』

僕

男の召使い。下男。しもべ。「僕婢(ぼくひ)／家僕・下僕・公僕・従僕・臣僕・忠僕・奴僕(どぼく・ぬぼく)・童僕・老僕」

1 一人称の人代名詞。男性が自分のことをさしていう語。対等またはそれ以下の人に対して用いる。「—んちにおいでよ」「君のほうが—より若い」

2 小さい男の子に対して呼びかける語。「—のお名前は」

[補説] 1は、現代では親しみのあるくだけた言い方として使われ、改まったときは「わたくし」を用いる。古くは「やつがれ」と読み、相手に対してへりくだる気持ちで用いられた。明治時代から、書生・学生が「ぼく」と読んで用いるようになった。

墨

1 書画に用いる黒の顔料。すみ。「墨痕(ぼっこん)・墨汁・墨跡／翰墨(かんぼく)・古墨・筆墨・文墨・水墨画」

2 すみで書いたもの。「遺墨・断簡零墨」

3 ものを書く道具。「白墨」

4 いれずみ。いれずみの刑。「墨刑」

5 大工道具の一。すみなわ。「縄墨」

6 中国古代の思想家、墨子(ぼくし)。「墨家・墨守」

7 隅田川のこと。「墨水・墨堤・墨東」

8 メキシコ。「日墨・米墨戦争」

[二] 〈すみ(ずみ)〉「墨絵／薄墨・靴墨・朱墨(しゅずみ)・眉墨(まゆずみ)」

牧

1 家畜を放し飼いにする。

木

1 立ち木。樹木。

2 年月を経て、ふしくれた樹木の根や幹。築山などに用いる。「みごとな—」

3 材木。転じて、木を材料にしたもの。木製。「—の煙草盆」

4 気のきかないこと。また、そのさまや、そのような人。

「—な野郎だとつもられるもお恥づかしいからね」〈滑・早変胸機関〉

ト

亀甲や獣骨を焼いて生じるひびの形により事の吉凶をうらなうこと。また一般に、うらなうこと。うらない。

朴

1 飾り気がない。「朴実・朴直・朴訥(ぼくとつ)／簡朴・質朴・純朴・淳朴(じゅんぼく)・素朴」

2 木の名。カラホオノキ。「厚朴(こうぼく)」

[補説] 1は「樸」と通用する。

[二] 〈ほお〉木の名。ホオノキ。「朴齒(ほおば)」

[名のり] すなお・なお

撲

打ちたたく。なぐる。「撲殺・撲滅／打撲」

『クラインフェルター・サーボ (KS)』

クラインフェルター症候群 (KS) とは

1. 概要

クラインフェルター症候群 (KS) は、男性の性染色体に X 染色体が一つ以上多いことで生じる疾患の総称である。性腺機能不全を主病態としている。

2. 疫学

約 62,000 人、男性のみ

3. 原因の解明

X 染色体の数的・構造的異常が原因であると考えられているが、発症に至るメカニズムについては不明な部分が多い。KS の場合、X 染色体の数的増加による遺伝子量効果や染色体不均衡によって遺伝子発現量に変化するために引き起こされていると考えられる。

4. 主な症状

四肢細長、思春期来発遅延、精巣委縮、無精子症などを主徴とする。女性化乳房を認める場合がある。

5. 主な合併症

悪性腫瘍、骨粗鬆症、自己免疫疾患、糖尿病、軽度の知的障害など。TS では、骨粗鬆症、糖尿病、甲状腺機能障害、大動脈縮窄症や僧帽弁逸脱、大動脈二尖弁などの心・血管系障害、馬蹄腎などの腎・腎血管系の奇形が認められる。

6. 主な治療法

KSにおける二次性徴不全症例に対しては、テストステロン補充療法が用いられている。テストステロン療法は、骨密度の上昇のためにも有効である。なお、不妊に対する根本的治療法は存在しない。

サーボとは

ラテン語の *Servus* (サーバス：奴隷) が語源といわれ、奴隷は命令(指令)に対して、忠実に動く(動作)の意から、このような動きができる制御機構を一般にはサーボと呼んでいます。忠実に動作するためには俊敏かつ、精度の良い動きが要求されます。の3点で構成されます。